

令和3年度美馬中学校教育についてのアンケート結果の考察

美馬中学校

今年度、生徒と保護者の皆様を対象に実施した「美馬中学校教育についてのアンケート」の結果をまとめましたので、お知らせします。なお、アンケートの詳しい結果(データグラフ)につきましては、学校ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

【学校生活の充実】

生徒の「学校へ行くのが楽しい」、保護者の「学校は、子どもにとって楽しみなところである」の問いでは前・後期とも、80～90%の肯定的な回答があった。しかし、前・後期を比較すると、保護者は約5%肯定的な回答が増加したのに対し、生徒は後期の方が約5%減少したことは大きな課題であり、手立てを講ずる必要がある。確かに不登校傾向の生徒は依然として多く、夏休み以降に増加した。その背景には、少なからず新型コロナウイルス感染症の影響があると考えられるが、確かな学力の定着に向けた授業改善、魅力ある学校行事や自己実現に向けたキャリア教育の充実等、中・長期的なビジョンを持って取り組む必要がある。

【確かな学力の育成】

「わかる授業」の実践については、前・後期とも生徒は約95%、保護者は約90%(昨年度比+5%)の肯定的な回答があった。今年度は、学習指導要領改訂を受け、基礎基本の定着、確かな思考力・判断力・表現力の育成をめざし、GIGAスクール構想「一人一台端末」により、ICTを活用した授業にも取り組んだ。また、本校教員相互や小中連携授業実践の授業公開を行う等の授業改善研修への取組の成果も少しずつ上がってきたようである。今後も教職員の授業力向上に継続的に取り組んでいきたい。

「家庭学習の工夫・充実」については、生徒・保護者の肯定的な回答が昨年度とほぼ同様に前・後期とも約80～85%であった。また、「家庭学習が内容を工夫してできるようになった」とした生徒は、前・後期とも約85%であった。今後は、やや形骸化しつつある「家庭学習の友」や来年度リニューアルする「前進」等を有効活用して生徒が計画的・自主的に家庭学習に取り組む体制づくりを図り、家庭学習の習慣化に取り組むたい。

【豊かな心の育成】

生徒の「命の尊さや人権の大切さを学ぶ機会がよくある」、保護者の「学校は道徳や人権教育を積極的に行っている」の問いで、後期では約95%の肯定的な回答(昨年度比±0%)があった。今年度は、「特別の教科 道徳」としてスタートして3年目であり、道徳教育の充実に向けた教職員研修では、大学教授を招聘しての研修や校内研修を行い、学校全体で人間としてよりよく生きるための基盤となる道徳性の育成に努めてきた。また、人権教育では教職員の現地フィールドワーク研修はコロナ禍で中止になったが、生徒の体験学習や全校生による人権集会に取り組む等、人権意識を高める機会を積極的に設けた。「生徒のあいさつやきまりを守る等の基本的な生活習慣」についても、前・後期とも約93%の肯定的な回答(昨年度比-3%)があった。仲間や地域の方々と交わすあいさつは、互いのつながりや絆を深める大切なものである。今後も美馬中学校のよき伝統として継続していきたい。

【健やかな体】

「健康や体力づくり」については、生徒・保護者ともに、前・後期とも約90%の肯定的な回答(昨年度比±0%)であった。部活動や体育の授業、保健指導等で、体力づくりを行ったり健康について考えたりする機会を設けている。「健康診断」の結果によると、本校の生徒は、身長は中1男子、中1・中3女子とも全国平均より高く、体重は全学年男女で全国平均より重い傾向にあり、肥満傾向も高い。また、体力テスト種目の結果は、学年によってばらつきがある。運動をする環境づくりや生活習慣の乱れに対する指導を充実させたい。

【進路指導・キャリア教育】

「社会の一員として生き抜く力の育成 ～社会力、人間力の育成～」を目標に、外部講師を招聘した体験学習を実施するとともに、「キャリアパスポート」を活用してキャリア教育の充実に取り組んでいる。「学校では、進路や生き方について考える機会がある」の問いに対しては、前・後期とも生徒は約80%(昨年度比-10%)、保護者は約85%(昨年度比+5%)の肯定的な回答があった。3年生での進路決定に向けて、1・2年生から3年間を見通した進路指導やキャリア教育の中・長期的な目標を定めて計画的に推進したい。

【安全教育】

生徒の「災害が起こった時どうしたらよいか教えてもらっている」、保護者の「学校は、安全指導に努力している」の問いで、前・後期とも約 95 % (昨年度比± 0 %) 近くの肯定的回答があった。これは、生徒や家庭・地域住民の南海トラフ地震に対する意識の高まりが背景にあると感じる。今年度も、小中合同の避難訓練を複数回行った。しかし、認定こども園や地域と連携した「合同防災訓練・引き渡し訓練」は実施できなかった。是非とも来年度はしっかりと計画して実現したい。生徒たちには、近くにいる園児・児童や高齢者とともに助け合う「共助」の精神と行動力を身に付けさせたい。

【様々な教育活動】

「学校行事」に対しては、生徒・保護者ともに約 90 % 超の肯定的な回答であった。長引くコロナ禍において、感染防止対策を徹底した取り組みには、一定の理解と協力をいただいている。今後はアフターコロナを見据えて、学校行事の精選や内容の見直しに取り組む必要がある。部活動については、「部活動に積極的に参加している」の問いでは、多くの生徒が肯定的な回答をしており、積極的に学校生活を送っている生徒が多いことがわかる。部活動では、「部活動活動方針」に基づいて、適正かつ充実した部活動運営に取り組んでいきたい。反面、生徒会や委員会活動への関わりが消極的であったと捉える生徒が多い点は、引き続き課題である。

【生徒指導】

生徒・保護者ともに、「いじめや悩み事等によく対応してくれる」に対して、前・後期とも約 85 % の肯定的な回答 (昨年度比± 0 %) があった。しかし、「悩みや心配なことを、相談することができる先生がいる」の問いに対して、昨年度同様に約 30 % の否定的な回答がある。中学生の発達段階を考えるといた仕方ない面もあるが、生徒がより相談しやすい体制づくりに取り組む必要がある。

また、定期的な「生活に関するアンケート」を継続実施し、学年団、生徒指導主事、管理職員で共有して組織的に対応し、職員会議でも全職員で共有を図っている。今後も、「生活に関するアンケート」や「教育相談」、「前進」等を通して、生徒理解に努め、生徒の小さなサインを見逃さず、いじめや問題行動の早期発見・早期対応に努めたい。さらに、本校でも SNS の使用によるトラブルが発生しており、スマートフォン等の情報端末の利活用については、情報活用能力の育成とともに、保護者との連携が不可欠である。

【環境整備】

生徒・保護者ともに、昨年度同様に約 90 % 近くの肯定的回答があった。生徒たちの地道な清掃への取組やボランティア部を中心とした花づくりにより、学校の環境美化に努めることができた。今後も小学校と連携して美しい学校環境を構築したい。

【地域・保護者との連携】

保護者の「ホームページ等の情報提供」では、昨年度同様に前・後期とも約 90 % 以上の肯定的回答があった。今後もホームページで学校の取り組みを発信するとともに、「さくら連絡網」も積極的に活用していきたい。一方、「PTA 活動等家庭と学校との協力関係ができています」では、前・後期とも保護者の 85 % 以上が肯定的回答 (昨年度 80 %) だったが、否定的な回答も少なからずあり、今後の課題である。次年度は、PTA 活動の更なる活性化と、小中学校が連携したコミュニティスクールの導入に取り組みたい。

【職員研修】

本年度も、ノ一部活デーを活用して、研修会や授業研究会を開催した。次年度も、教員同士が互いに学びあい高め合うメンター制度による研修の充実や、OJT を積極的に行う等、教師の資質向上と指導力向上を目標とした研修を積極的に行っていきたい。

【特別支援教育】

生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、支援を必要とする生徒が将来的に自立し、社会参加を図る事ができるよう、合理的配慮を心がけ、生徒たちへの個に応じた支援を行った。来年度も、特別支援教育の充実に向けて、環境整備や支援体制をより一層整えるとともに、教職員への研修も積極的に行っていきたい。

～ 今後の取組について ～

今年度のアンケート結果を踏まえて改善を図り、一人一人の生徒たちの生きる力を育成するため、全教職員が、保護者の皆様や地域の皆様と、力を合わせてより充実した教育活動の実践に努めてまいりますので、今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、昨今「教職員の超過勤務の増加に伴う諸問題」が大きな課題となっています。学校業務に適切に取り組むためにも、引き続き学校の業務改善や働き方改革の推進にご理解をいただき、ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。